



令和6年度 加賀市長からのメッセージ 第012号 12月27日配信

本年もあと数日となりました。振り返れば2024年は県内が未曾有の自然災害に見舞われた年でもありました。1月には能登半島を震源とする大地震が発生し、市内でも避難や損壊が発生。市民生活に大きな影響が出ました。現在もまだ復興への道を歩み続けていますが、加賀市から能登への災害派遣や市内の復旧・改修につきましてもご理解とご協力を賜りお礼申し上げます。

一方では、北陸新幹線の加賀温泉駅開業を契機とした観光資源の活性化や新産業の振興など、これからの市の発展につながるビッグニュースを多く届けられた年でもありました。

先日も加賀市でヒト飛行事業を推進している emblem（エンブレム）社が NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の先導研究プログラムの採択、および JAXA（宇宙航空研究開発機構）ベンチャーとしての認定を受けたことが報道発表されました。「空の産業集積」を掲げている加賀市としては非常に喜ばしいニュースのひとつでもあり、今度も「世界で一番ビジネスのしやすい街」をモットーに国家戦略特区の優位性を生かして、市の産業を成長させていきたいと考えております。

また、先日報道発表にもありましたように、宝塚医療大学の観光学部キャンパスを開設する方針で準備を進めています。加賀市は国家戦略特区の「デジタル田園健康特区」に指定されています。これを活用して大学のヘルスツーリズムを支援するとともに、市内の観光事業での職場内研修や専門人材の雇用などにもつながっていくことを期待しています。

市民の皆様には日頃より市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。来る年も市民の皆様とともに、より良い加賀市を築いてまいりたいと考えております。

寒さの厳しい季節ではありますが、くれぐれもご自愛いただき、よいお年をお迎えください。

(令和6年12月27日号)

加賀市長 宮元 陸